

筑後川大石堰



筑後川の中洲(祇園町)から見た上流側の大石堰



大石取水口から上流側を見る



大石取水水門



大石取水口に近い水神社



三堰碑(大石・長野・袋野水道)

五庄屋遺跡

浮羽地方は、北に筑後川、南と東には巨瀬川と隈上川にはさまれており、水の便に恵まれているようですが、いずれも川底が低く直接大地に水を引き入れることができませんでした。そのため、農地が少なく、荒地や竹やぶにおおわれ、日照りが続くとき農作物は枯れてしまい収穫できませんでした。

今からおおよそ三五〇年前、江戸時代前期の寛文の頃、千ばつと洪水が続き、食べるものがなく餓死したり、故郷を逃げ出す者が出たりと村の存亡の危機にありました。

このことを憂い、江南の五つの村の庄屋（高田村の山下助左衛門、夏橋村の栗林次兵衛、今竹村の重富平左衛門、清宗村の本松平右衛門、菅村の猪山作之丞の五人の庄屋）が立ち上がり、筑後川の上流約十キロメートルの大石地区から水を引き入れることを久留米藩に頼り出しました。

運営工事として、寛文四年（一六六四年）一月より工事にかかり、わずか二カ月あまりで完成し、七五〇メートルに通水しました。その後、二期、三期、四期として大石堰築造と、次々に工事が進められ、灌漑面積は一四〇〇ヘクタールとなり、現在では二〇〇〇ヘクタールを超え、田畑を潤し続けています。

寿橋に掲示されている『五庄屋遺跡』の説明文



浮羽町高見の町中を通る大石水道



うきは市立うきは歴史民俗資料館で『大石堰』の歴史について説明を受ける



JR久大線うきは駅の駅標



防災セミナーの会場となった福岡市天神の『アクロス福岡』



アクロス福岡の内部



7月1日から山笠祭が始まる



久大線の普通電車



なぜか『或る列車』と称する不思議な列車が…

防災・減災セミナー2022福岡

2022年6月24日(金) 10:00~17:00

アクロス福岡 円形ホール / 防災ログ実行委員会

参加費 無料

10:00	福岡市の災害に強いまちづくり	
▼	福岡市 市民局防災・危機管理部防災企画課 防災企画課長	米倉 照貴 氏
10:40	災害対応業務の効率化に向けたDX推進とFASTALERTの取り組み	
▼	株式会社JX通信社 マーケティング・セールス局 公共戦略チームマネージャー	藤井 大輔 氏
11:20	激甚化・頻発化する水災害への備えについて	
▼	国土交通省 九州地方整備局 河川部 水災害予報センター 水災害対策専門官	巖所 敏明 氏
13:00	対策本部の意思決定と人材育成 ~災害図上演習の活用~	
▼	災害対策研究会 代表	宮本 英治 氏

防災セミナーのプログラムの一部



福岡市の繁華街『新天町』は早くもお祭り気分